

「椿診療所」開院 地域医療の充実を図る

7月30日、医師が不在となっていた椿町に阿南医療センターの協力のもと「阿南市国民健康保険椿診療所」を開院しました。所長で医師の茶本真由美さん、看護師の谷脇千恵美さんと澤野麻里さんの3人体制で、毎週火曜日・木曜日の13:00～16:00に診療が行われます。茶本所長は、「交通弱者である高齢の方や患者さま中心にケアをしっかりと行っていきます」と話していました。



全公用車にドライブレコーダーを設置 安全な市民生活のために

本市が所有する全ての公用車226台にドライブレコーダーを設置しました（消防団の消防車両は除く）。ドライブレコーダーを設置することで、職員の安全運転意識や運転マナーの向上と交通事故発生時の責任の明確化を図ります。また、市内をくまなく走る公用車に防犯カメラとしての役割を担わせることで、「動く防犯カメラ」として市民生活を見守ります。



野球に親しんで ティーボール体験会を開催

幼い頃から野球に親しんでもらおうと、阿南市主催では初の「ティーボール体験会」が、7月7日にあななんアリーナで開催され、子どもたち110人が参加しました。ティーボールとは、ティー（端を切ったカラーコーンを使用）に置いてあるボールを打つ競技で、小さな子どもでもできます。参加した増田琉有さん（5歳）は「ボールをしっかり見て打った。楽しかった」と話していました。



阿南市国際交流協会 日本語教室 新野町で開講

阿南市国際交流協会が主催する日本語教室が、周辺に外国人が多く居住している新野町で始まりました。7月7日、教室が行われる新野公民館で開講式があり、20人が参加しました。来年3月まで月2～4回実施されます。ベトナム国籍のグエンティ・トウイさん（27歳）は、「勉強してベトナムで日本語を教えたいです」と意気込んでいました。



日本財団「わがまち基金」を活用 地域資源を生かした観光モデルを構築

（一社）国際野球観光交流協会に対し、（公財）日本財団「わがまち基金」から助成金1,000万円が交付されることになり、7月22日に市役所で記者発表が行われました。本協会は助成金を生かし、阿南信用金庫、阿南市と連携し、地域資源を活用した観光事業と野球をテーマとしたスポーツ振興事業との融合による地域創生に取り組みます。



阿南市フェイスブック 阿南市や地域の出来事をいち早くチェック！
市ホームページからご覧いただけます。
<http://www.city.anan.tokushima.jp/>

News Oasis



B&G艇庫完成を前に イベントを開催

北の協海水浴場に建設中のB&G新艇庫プレイベント「ビーチセッションフェスティバル」が、8月4日に開催されました。来場者は、水上トランポリン、シーカヤックやアクアボールなど多彩なマリンスポーツを楽しみました。また、ステージではダンスなどが行われました。志摩音彩さん（14歳・中林町）は、「シーカヤックが面白かった。またやってみたいです」と満足したようでした。

移住者の視点を市政に生かす 市長との座談会を開催

U・Iターンした移住者の目線、立場から市政に対する意見を聞き、今後の移住・定住施策の推進に生かすため「移住者と市長との座談会」が、7月23日に文化会館で開催されました。参加した移住者12人は、阿南市を住みやすい町にするための提言をしました。「交通のアクセスが良くなれば暮らしやすい」「魅力がある文化や自然を生かしていけば良い」などの意見がありました。



買い物に役立てて 羽ノ浦町五輪会がエコバックを製作

羽ノ浦町の商店18店舗が加盟する「羽ノ浦町五輪会」が、結成55周年を記念しエコバックを製作しました。レジ袋の有料化に備えて、同会が企画したもの。エコバックは500袋製作し、7月28日にあった恒例の抽選会に参加されたお客さまに進呈しました。同会の中島光子さん（78歳）は、「町内のお買い物に役立ててほしいです」と話していました。



男女共同参画社会の実現に向けて まずは男性料理教室

7月16日、ひまわり会館で男性料理教室が開催されました。参加したお父さんたちは、岩浅市長と一緒に阿南市産の食材をメインにした料理を作り、笑顔で舌鼓を打っていました。普段は料理をしないという、鈴木保治さん（羽ノ浦町・68歳）は、「レシピがあれば、作ることができそう。自宅でも作ってみたい」と話していました。また、岩浅市長が徳島県初のおとう飯サポーターに就任しました。

